

PRIMERGY サーバのご利用における留意事項

1. 保守サポート期間

保守サポート期間は、お客様の購入後 5 年間です。

2. 定期交換部品と消耗品

お客様の使用環境や使用時間によりサーバの一部の部品で保守サポート期間内に交換が必要となる定期交換部品があります。

交換時期・定期交換部品の交換周期は、いずれも適切な使用環境下での運用を前提としています。

動作環境は 10～35℃ですが、交換時期は平均使用温度 25℃での運用を想定しており、空調のある常温で使用してください。

対象となる定期交換部品、消耗品については、以下の URL をご参照ください。

<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/support/parts/>

(1) 電源ユニット、ファン(CPU、電源、冷却用ファン)

装置により、定期交換部品の有無・交換時期が異なります。

交換予告後、1 年以内に交換をお願いいたします。

(2) 高機能無停電電源装置(NetpowerProtect/Smart-UPS)

電源の投入/切断時間にかかわらず約 2 年を経過すると交換時期となります。

交換予告がされた場合、速やかに交換をお願いいたします。

なお、UPS は周囲の温度環境により、バッテリーの寿命が大きく変動します。

詳細については「UPS 適用ガイド」に記載がありますので、ご確認の上ご使用ください。

(3) バッテリー機能付き SCSI/SAS アレイコントローラカード

目安としては 25℃の環境で、購入日から 3 年以内でバッテリーを交換するようにして下さい。

(2 年経過すると交換予告が出ます。)

(PG-142C/PG-142E/PG-142E1/PG-142E3/PGB142E3B を使用する場合、または RX300 S2 で基本キャッシュメモリ変換機構(PG-CU12B1)適用時、RX600 S2 使用時も同様)

PG-144C を使用する場合は、購入日から 2 年半で交換するようにして下さい。

(1 年半経過すると交換予告が出ます。)

以下の SAS アレイコントローラカードのバッテリーは消耗品です。

PG-244C/PG-244C1/PG-244CL/PG-248C/PG-248C1/PG-248C3/PG-248C4/PG-248C6/PG-248CL/

PG-248C2L/PG-248G/PG-248G1/PG-248G2/PG-248G3/ PG-248GL/PG-248G1L/PG-248G2L/

PG-248G3L/ RX600 S4 標準搭載 SAS アレイコントローラカード/

SX940 S1 ストレージブレード用 BBU(PGBBBU6)

電源の投入/切断時間にかかわらず約 3 年を経過すると交換時期となります。

(2 年 6 ヶ月経過すると交換予告が出ます。)

交換予告が出ましたら、以下の型名をオーダーください。

品名	型名	対象製品
バッテリーバックアップ ユニット	PG-BBU1	PG-248C/PG-248C1/PG-248CL/PG-244C1/PG-244CL
	PG-BBU2	PG-244C
	PG-BBU3	RX600 S4 標準搭載 SAS アレイコントローラカード
	PG-BBU4	PG-248G/PG-248G1L/PG-248G2L
	PG-BBU5	PG-248G1/PG-248G2/PG-248G3/PG-248GL/PG-248G3L/ PG-248C3/PG-248C4/PG-248C6/PG-248C2L SX940 S1 ストレージブレード用 BBU(PGBBBU6)

3. 節電・寿命対策

(1) CRTディスプレイは未使用時は電源断としましょう。

CRTディスプレイは、電源オン時は内部で非常に高い電圧が発生しており、ブラウン管の寿命を縮めます。表示情報を確認する必要がない時はCRTディスプレイの電源を切断してください。

(2) Windows 2000/2003/2003 R2/2003 X64/2003 R2 x64/2008(32-bit/64-bit)/2008 R2ではディスプレイの電源を落として下さい。省電力モードは使用できません。

4. 高信頼性・高可用性への配慮

(1) ハードディスクはアレイ構成で高可用性化してください。

ディスクアレイ、ミラーやホットスペアなどの冗長性を持ったディスク構成を推奨します。

ハードディスクの故障が発生してもシステムの連続運転が可能なディスクアレイ構成、ホットスペア構成とすることを推奨します。特にハードディスク故障時にも冗長を維持できるホットスペア構成をとることを推奨します。

(2) UPSを採用し入力電源の停電やノイズからサーバを防止しましょう。

商用電源の電圧変動や停電・瞬断によるデータの喪失等を回避するために、無停電電源装置(UPS)をご使用ください。

(3) データのバックアップは必ずしましょう。

ハードディスクはアレイ化で故障時のデータ復旧はできますが、ご操作や災害などさまざまな要因によりデータの喪失が考えられます。データの復旧には多くの時間と費用がかかります、必ずバックアップを取ってください。

5. サーバ監視や清掃など日ごろのお手入れ。

サーバを支障なく安定した稼働をさせるには、日常のお手入れが重要です。これらを怠ると、サーバの故障による業務の停止やデータ損失等に結びつく危険があります。マニュアル等にも記載されておりますが、確実な遂行をお願いします。

(1) サーバの状態監視を必ずしましょう。

状態表示ランプやサーバ監視ツールで、サーバ本体の状態を常に監視してください。

■ 各種ランプの確認

サーバには、ハードウェアの状態を表示するランプ(LED)が付いています。ランプ(LED)は、ハードウェアの状態を色や点滅で表します。ランプの位置と表示色や状態は、サーバ本体のマニュアルにてご確認ください。

■ LCDパネルの確認

サーバには、メッセージを表示するLCDパネルが付いている機種もあります。

LCDパネルはハードウェアの正常状態やエラー状態をメッセージで知らせます。LCDパネルの詳細、メッセージ内容はサーバ本体のマニュアルにてご確認ください。

■ サーバ監視ツール(ServerView Operations Manager*)で必ず常時監視

ServerView Operations Managerは、サーバのエラーを監視するソフトウェアです。ServerView Operations Managerは、常時ハードウェアのエラーを監視し、エラーを検出すると監視コンソールにエラー内容を表示し、サーバ管理者にメールで通知します。エラーを認識したサーバ管理者は、エラーの復旧手順に従い処理することで、サーバを早期に安定した稼働を継続することができます。PRIMERGYサーバには、ハードウェアのエラーが発生してもサーバが停止しない冗長機構が各種装備されています。そのために、エラーを見過ごしサーバ停止やデータ損失に結びつくことも発生しています。PRIMERGYの安定運用・稼働には、ServerView Operations Managerによる監視は必須となります。

*「ServerView Operations Manager」は、ご使用の機種によっては「ServerView」が添付されている場合があります。この場合は本書の「ServerView Operations Manager」を「ServerView」に読み替えてください。

ServerView Operations Managerによる監視をしなかった場合に予想されるシステム状況

- ・RAID構成されたハードディスクの異常が管理者に通知されません。
これを放置すると複数台のハードディスク故障によりシステム停止とデータ損失の原因となります。
- ・メモリの1ビットエラーを確認できません。これを放置すると複数ビットのエラーに発展し、システム停止の原因となります。
- ・冷却FANの回転停止を確認できません。これを放置するとサーバ内部が高温となり、システム停止の原因となります。
- ・源系の故障を確認できません。その結果、サーバの誤動作、データの損失を招きます。
- ・電源の異常を確認できません。その結果、電源異常によるシステム停止を招きます。

<注意>

一部のサーバではServerView Operations ManagerやRAID管理ツール等がインストールされていないとサーバ前面の故障ランプが機能しません。これらのインストールは必須です。

(2)サーバの外・内部を清掃しましょう。

サーバは、“ほこり”が原因で故障となることがあります。設置場所に注意し清掃をこまめにお願います。

■サーバ本体の清掃

柔らかい布で乾拭きします。乾拭きで落ちない汚れは、中性洗剤をしみ込ませて固くしぼった布で拭きます。汚れが落ちたら、水に浸して固くしぼった布で、中性洗剤を拭き取ります。拭き取りのときは、サーバ本体に水が入らないようにご注意ください。

サーバ本体を損傷する原因になります、中性洗剤以外の洗剤や溶剤などは使用しないでください。

掃除機などでほこりを吸引し、通風孔にほこりがたまらないように定期的に清掃してください。

短期間でほこりが付くなどの塵埃の多い環境では、故障の原因となります設置場所を変更してください。

■サーバ内部の清掃

サーバ内部にほこりが堆積する悪環境では、ほこりがサーバの故障・発火・感電の原因となります。

定期的に堆積したほこりを掃除機にて吸引してください。

■オプションの清掃

CPU: ほこりが付着すると冷却性能が下がりますので取り除いてください。

冷却ファン: 周りに付着しているほこりを取り除いてください。

メモリ／拡張カード: メモリとメモリの間、拡張カードと拡張カードの間に付着しているほこりを取り除いてください。また、増設する際はコネクタ部分についているほこりを取り除いてください。

内蔵ハードディスクユニット／内蔵5インチオプション: 外周部に付着したほこりを取り除いてください。

特にテープ装置は塵埃の影響を受けやすく、故障の原因となる場合があります。搭載している場合には、塵埃の少ない、きれいな環境に設置してください。

<清掃時の注意>

CPU やメモリ、ハードディスクユニットなどを取り外す場合は、十分注意してください。また、取り外した部品やケーブルは、必ず元どおりに接続してください。

エアブローやはけで払ったほこりをそのまま放置すると、故障の原因となります。必ずサーバ内部から取り出してください。

サーバ本体内部の清掃では、電源ユニットを分解しないでください。故障、感電の原因となります。

テープ系装置の清掃は、「バックアップガイド」をご参照ください。

<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/pdf/note/backup-guide.pdf>

6. 入力電源の供給条件

サーバの安定稼動に電源は重要な要件であり、入力電源が正しく入力されないとサーバが不安定な動作をします。

(1) レーザプリンタと同じラインを使用しないでください。

レーザプリンタは印刷時一時的に大電流を要し、この時に電源供給が一時的に不安定となり、不意なサーバハングが発生する場合があります。この状況を避けるには、レーザプリンタとサーバの電源ラインを分けることが一番です。サーバの電源ラインを別に確保するようお願いいたします。同じUPSにレーザプリンタとサーバを接続することも同様です。

(2) 多数の機器とサーバを同じ電源ラインに接続しないでください。

電源供給量はそのラインの限界を超えてしまうことがあります。サーバは特に多量の電流を使用しますので、サーバの電源供給ラインを別に確保するようお願いいたします。

(3) 家電製品(電気ポット等)とサーバを同じ電源ラインに接続しないでください。

(1)と同様の現象が発生する恐れがあります。サーバは特に多量の電流を使用しますので、サーバの電源供給ラインを別に確保するようお願いいたします。